

新鋭、世界へ挑戦

18歳以下で競う水球女子の世界ユース選手権(7月31日開幕・セルビア)代表に、県内から3人が選出された。白鷺女子高3年の鈴木杏梨、温井真心と、桐光学園高2年の甘庶(かんじゃ)乃亜(Kingfisher Jr)。いずれも初の国際大会に挑む新鋭たちは、まだ見ぬ海外勢との戦いへ腕を高

水球女子世界ユース選手権 県内3人代表入り

右サイドの鈴木を起成に、フローター温井が得点を重ねる。若き代表の浮沈の鍵は、白鷺女子高の両輪が握っている。

「泳ぎのスピードと持久力に自信がある。ボールを前につないでアシストパスをたくさんしたい」。司令塔・鈴木は、ケムナーク能力と競泳で培った泳力だ。本場欧州勢をはじめ、海外選手のパワーはまた想像の世界。でも、「パワーに勝てるのはスピード。力には速さで対抗したい」。

最前線で最強な相手ディフェンスと舞り合う温井もまた、目をきらきらさせる。「動いて陣を突き、みんながつないでくれたボールを決めたい」。技術は折り紙付き。指揮を仰ぐのは世界を知る名フローターだ。

「温井は上背はないがバワフルなプレーができる」と熱いまなこを向けるのはリオオリンピック五輪男子代表の柳瀬彰良監督(33)。鈴木についても「泳力があり日本の戦術とマッチする」と太鼓判を押す。昨夏の東京五輪では三浦雄也選手(29)の優勝に貢献した。心躍る未知の戦い。温井が「一つでも多く勝ちに貢献したい」と言えば、鈴木も「白鷺のチームに還元できるように、いろんなプレーを吸収してみたい」。飛躍の種まきかもしもりだ。



若き代表の守護神を担うKingfisher Jrの甘庶

司令塔・鈴木 フローター温井 攻撃の鍵握る白鷺勢



攻撃の要として期待される白鷺女子の鈴木(左)と温井

飛び級、クレバーさ武器

GK 甘庶

「ゴールマウスを守るのは、飛び級で選出された16歳。一週はれないと思っただけなのに、初々しいはにかむ甘庶だが、実力は高校生世代すら飛び越えている」。

「頭脳的なプレーが得意。指示出しは的確だし、セーリング能力も高い」とKingfisher Jrの三浦雄也監督(39)は、日頃から大學生のシ

「トキを捉える機会も増え、クレバーに技術を磨いてきた」。小学校時代はドッジボールに没頭していた。中学入学後に本格的に水球を始めると、最初は得意に苦しみながらも「見習い」の気持ちで練習を重ねてきた。白鷺勢とは県選抜チームなどで旧知の仲だ。「(鈴木) 森さんには指しを見てゲームメイクしてあげるし、温井さんは必ず決めてくれる」ともに挑むのは日本女子の歴史を築く大

U16は3人代表入り
○8月にギリシャで行われるU16(16歳以下)世界選手権には、甘庶に加え、白鷺女子高から鈴木(小1年)、石巻学院(高2年)が代表入りした。
「自分の持っている力を出し、チーム全員で笑って帰って来られるような試合がしたい」とGK鈴木は、本場の水球の石巻は、キーパーと連携してしっかり指示を出し、いい結果に導けるようにしたい」と闘志を燃やした。